

地域に根ざした設計集団(株)鈴木建築設計事務所

伝統ある建物に新たな命 次世代につながる景観創造

「顧客第一」をモットーに多岐にわたる施設の設計を手掛けている(株)鈴木建築設計事務所。山形県内で初めて日本建築防災協会(東京)の耐震改修優秀建築賞を受賞するなど高い評価を受けている。「事業が長く存続することのみに価値を見出すのではなく、調査研究的な側面を持ち、地域特有の建築文化や街の姿を守る設計集団であり続けたい」と語る藤原薫代表取締役社長に経営方針などをうかがった。

―伝統ある建物に新たな命を吹き込むリノベーションが大切と指摘しています。その象徴が長井市の旧長井小第一校舎改修工事です。

藤原社長 長井市はかつて最上川舟運の終着港として栄えた町でした。校舎は昭和8年に建設された木造2階建てで、平成21年に国の有形文化財に登録されました。しかし、耐震診断で大幅な耐震性能不足が明らかとなり、平成27年に小学校としての役目を終えました。1年掛けて「取り壊しか、保存・再生か」という議論が交わされましたが、建設後

80余年にわたり市民の大切な記憶を継承しようと市長が保存・再生を決定しました。

学びを中心とした地域の交流施設に―という市の方針を受けて、私たちは「安全・安心で快適な建物とする」「人々の記憶とアイデンティティーを継承する」をテーマに設計に取り組みました。それまで培った技術と経験を駆使して、耐震改修は横幅約93^{mm}、奥行11^{mm}、延べ面積2271平方^{mm}の建物を油圧ジャッキで持ち上げ、基礎を造り直して免震装置を設置。床面には鉄骨ブレイ

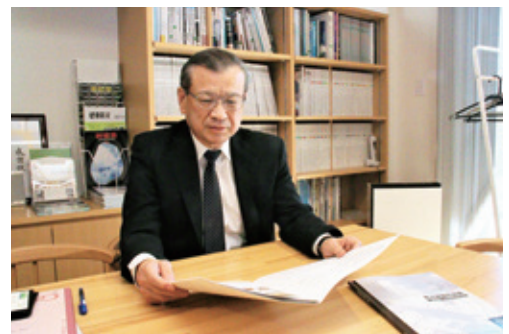
ス、壁には木製の筋交いを追加。屋根瓦も粘土から金属に変更して軽量化を図りました。既存建物の基礎に免震装置を組む「免震レトロフィット工法」を巨大な木造建築に採用したことが評価されて、耐震改修優秀建築賞を受賞しました。

地域の職人さんたちの力を活かすことを第一に据えて工事計画を立案。地元のゼネコンが主導した免震工事、弘前城の曳家経験のある米沢の曳家業者によるジャッキアップ、地域の木工職人による腐朽補修を含む大規模木造の木工事と、国内でも

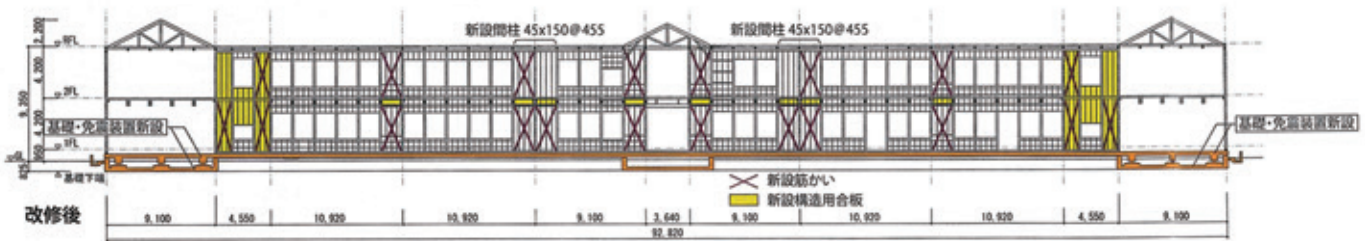
極めて稀な工事を地域の力で実現することができたのです。

―これまでに設計を手掛けてきた主な建築物は。

藤原社長 当社は昭和31年、寒河江市出身の鈴木健吉(平成8年死去)によって創設されました。山形県内で初めて特別養護老人ホームを手掛けるなど数多くの介護施設や障がい者施設の設計に取り組んできました。人に優しい木造建築やリノベーションにも力を入れています。近年では、多くの観光客が訪れる道の駅米沢や旧白鷹西中跡地に建設された特別養護老人ホーム白光園、中山町立中山中、2018年度グッドデザイン賞に選ばれた東北大建築CLTモデル実証棟、田園風景と調



藤原薫代表取締役社長



耐震診断開始から5年の歳月を経て19年4月に開館した旧長井小第一校舎。「地域の
人々の記憶とアイデンティティーを継承したい」という市民の旧校舎への熱い思いを
設計者と施工者が受け取りリノベーション。市民ギャラリー、ワークショップカフェ
など新たな交流拠点として生まれ変わった（下は旧第一校舎改修後の軸組図）

和した外観デザインと最も高い耐震性を確保し今年5月に開庁した川西町役場など手掛けています。

私はいわき市出身。東北大工学部建築学科構造力学研究室で学び、1975年フジタ（東京）に入社し構造設計・ソフト開発や超高層鉄筋コンクリート造技術開発に携わりました。義父・鈴木健吉の死去に伴い97年に入社し、現在は山形県建築士事務所会長も務めています。

「次世代にも対応できる組織づくりを強調しています。」

藤原社長 その実現のために次のような経営理念を掲げています。1つは「山形・東北に根ざすこと」。その地域に住んでいるからこそ、その人・場所・地域の未来に届けられるものがあると考えます。2つ目は「Research & Design」。設計と観察・調査・研究を継続し地域にふさわしい快適空間を提案し続けます。3つ目は「For You, for Us」。多様で有能な人材を集め計画的に教育するとともに、外部の人的ネットワークを構築・活用して組織的に設計を行います。4つ目は快適で創造的な職場環境を作り上げていくことです。この経営理念の下、まちづくりにも参画し、地域のコミュニティや景観を創出したいと考えています。